

市の伝統工芸品・南部鉄器株式会社及精鑄造所は、その南部鉄器と自動車部品などの産業機械部品の製造を手掛けている。入社9年目の細川光 製造部次長は、仕事の傍ら、今年の春から岩手大学大学院の総合科学研究科地域創生専攻地域産業コース金型・鑄造プログラムに所属し、平塚真人教授から、鑄造の理論や先端技術を学んでいます。細川さんは、岩手大学在学中の就職説明会で同社の及川敬一社長と出会い、同社で働くことを決めました。将来、

株式会社及精鑄造所



1 製造部次長の細川光さん。入社当時は現場の作業をしていた。その経験が今の業務に生かされている
2 工場内に工程表などを掲示し「見える化」に取り組んでいる

社会人入学という方法もあるという話があったことも決め手の一つだったと語ります。実は、及川社長も2009年に岩手大学大学院を修了しています。その経験もあり、今後、社会人入学ができる会社にしたと考えていたそうです。同社に近接する市鑄物技術交流センターには、岩手大学鑄造技術研究センター水沢サテライトが設置されています。センターでは、大学教授によるセミナーを開講しており、細川さんも社会人入学を決める前から受講していました。細川さんはセミナー講師の一人である岩手大学の吉見登

司一非常勤講師から学んだことを基に、現在、社内の生産システムの整理や保守管理など、工程を「見える化」し、社員全員が現状を把握でき、不良を出しにくいシステムを構築しています。今後、大学院で学ぶ知識や技術も、現場の業務改善に生かしていきたいと考えています。大学院では、年下の同級生らに兄のように慕われている細川さん。自社への工場見学やインターンシップも受け入れており、「うちの会社だけではなく、鑄造業界全体にいい人材が入ってくれば」と笑顔で語りました。

産学連携 新商品開発 廃棄されていたヒエヌカを化粧品に

お米や未利用資源を活用し、発酵技術を用いた商品開発を進めている株式会社ファーマンステーション（本社 東京都墨田区、製造拠点 奥州ラポ 江刺岩谷堂）。同社では今年、ヒエヌカを活用した新原料を岩手生物工学研

究センター（北上市）、プロ農夢花巻（花巻市）と連携して開発しました。これまで未利用だった花巻市産のヒエの副産物であるヒエヌカからオイルやエキスを抽出し、その成分分析を生物工学研究センターが行い、原料化、商品化をファーマンステーションが担当しました。それぞれが得意分野を生かし、今回開発されたヒエヌカオイルは、薬王堂オリジナルブランドの化粧品に配合され、12月より東北管内350店舗で発売されています。酒井里奈社長は「今後も未利用資源のアップサイクルと魅力ある商品開発に励んでいきたい」と意気込みを新たにしていま



1 奥州ラボで製造しているエタノール 12月から販売している
2 代表取締役の酒井里奈さん
3 県産の植物由来成分をふんだんに使用したスキンケア商品「andOHU」(全5商品)

同社は、市内の休耕田を活用して栽培したコメを発酵・蒸留しエタノールを製造しています。また、残った発酵粕は化粧品や鶏の餌に活用し、さらにその鶏ふんは畑や田んぼの肥料にし、ヒマワリを育て油を抽出するなど、ごみを出さない地域での資源循環を提案し続けています。未来を見据えた取り組みは、岩手だけでなく、国内外へ広がりを見せています。



岩手大学 産学連携センター 研究支援センター長 今井 潤 教授

岩手大学からみた産学連携

研究支援・産学連携センターが2年10月に岩手大学内に発足しました。岩手大学が産学連携に力を入れ始めたのは、昭和の終わりから平成の初めごろ。当時はまだ産学連携は一般的ではありませんでした。

当センターには産学連携チームがあり、民間企業や自治体などと岩手大学を結ぶ窓口として、地域のニーズと研究者のマッチングなどを行っています。チームは、大学教授だけでなく、県職員や企業出身者、経済産業省からの出向、県内自治体職員などで構成され、相談にくる企業や自治体に近い立場のスタッフが対応します。

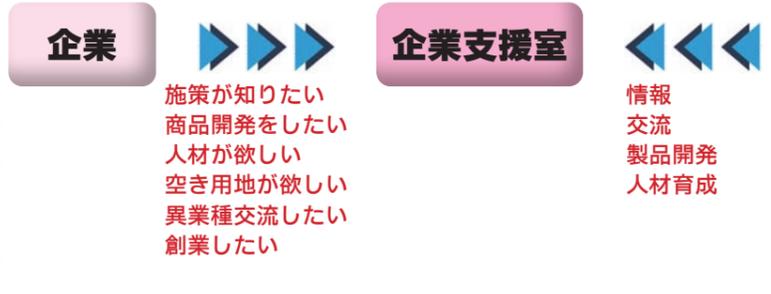


少子化が進み、大学も厳しい環境におかれており、新たな大学の中期計画でも産学連携を進めていくことにしています。その中で学生も地域で頑張っている企業や人に会う機会が増えれば、県内に就職する割合も増えていくと考えています。奥州市を含む北上川流域には鑄造関連の工場が多くあります。岩手が鑄造の拠点となるよう、また、研究開発など新しい取り組みができるよう大学としても頑張っていきたいと考えています。これからも、地域に頼られ、尊敬され、愛される大学を目指し、地域企業との産学連携を進めていきます。

企業振興課 企業支援室のご紹介

市では、平成31年4月より企業振興課内に企業支援室を設置しています。北上川流域地域に集積した企業の支援をさらに推進するため、企業のニーズをワンストップで大学などの研究機関や産業支援機関につなげられるよう体制を整備しました。その中で、岩手大学に職員を派遣するなど産学連携の支援を強化しています。

【推進体制のイメージ】



問い合わせ
本庁企業振興課企業支援室
(本庁舎5階)
☎ 34-2332 ☎ 24-1992



▲企業振興課 ホームページ ▲企業振興課 インスタグラム

関係機関
国・県
大学などの高等教育機関
公設試験研究機関
県内産業支援機関
金融機関
経済団体
各業界団体 ほか



岩手大学との共催でフォーラムを毎年開催しています。企業と岩手大学、また市と岩手大学の連携を強めています

【主要施策】

- 1 地域企業の経営力強化・産学官連携の推進
- 2 創業・起業家支援
- 3 企業間交流の促進
- 4 企業誘致・首都圏での情報収集、発信
- 5 新規卒卒者地元定着支援